



Special issue

# CUBE、FIRST 挑戦の10年

## マネジメント創造学部と フロンティアサイエンス学部が誕生して10周年を迎えました

2009(平成21)年4月、阪急電鉄西宮北口駅前(西宮市)とポートアイランド(神戸市中央区)に新しく開設されたキャンパスを舞台に、マネジメント創造学部(愛称:CUBE)、フロンティアサイエンス学部・研究科(愛称:FIRST)の挑戦がスタートしました。プロジェクト型グループ学習を展開し、経済・経営を中心に英語を重視した学びを深めるCUBE、バイオテクノロジーとナノテクノロジーの融合領域を探究し、画期的な技術革新をめざすFIRST。ともに、既存の学問の枠を超えた学際的教育・研究を通して、人や社会の未来に貢献できる人材育成を描く2つの学部のこれまでに、マネジメント創造学部長 谷口り子教授および、フロンティアサイエンス学部長 松井淳教授、同研究科長 赤松謙祐教授にお話をいただきました。

## CONTENTS

### 02 特集

**CUBE、FIRST 挑戦の10年**  
マネジメント創造学部と  
フロンティアサイエンス学部が誕生して  
10周年を迎えました

03 **学生は経験を繰り返すことで確実に成長しています**  
マネジメント創造学部長 教授 谷口り子

05 **異分野の掛け算から新たな発想を育む**  
**ねらい通りに基礎を固めた10年、次の10年はさらなる飛躍へ**  
フロンティアサイエンス学部長 教授 松井 淳  
フロンティアサイエンス研究科長 教授 赤松 謙祐

07 **さまざまな分野の第一線で活躍する卒業生**  
**It's KONAN Style [特別編]**  
**CUBE、FIRST 1期生の今**  
金城 ウイリアンさん/国広 潮里さん

09 **大学生と高校生が地域の課題解決にチャレンジ!**  
**SDGs × 甲南大学**  
岡山市チーム

13 **甲南大生の挑戦を可視化する**  
KONAN サーティフィケート

15 **なるほど!甲南アカデミア 法科大学院 教授 園田 寿**  
**規制か?啓蒙か?**  
**インターネット犯罪から青少年を守る方策**

17 **座談会**  
**「涙と笑いのホームステイ」**  
わが家に外国人留学生がやってきた!

21 **高中 Topics**  
快挙!甲南高等学校将棋部  
令和最初となる全国大会でついに覇者に!  
令和元年度 甲南高等学校・中学校 育友会 主催  
文化講演会「ソフィア」・演奏会&親睦会

23 **KONAN TOPICS**  
甲南学園から“旬”のニュースをお届けします

25 **岡本ぶらり 第7回**  
旅する岡本  
世界の国々やある地域にこだわったお店で、  
岡本にいながら別の地へ思いを馳せる

27 **平生夙三郎日記刊行記念シリーズ 完**  
**平生夙三郎の寿像の話**

29 **KONAN FORUM**  
課外活動成果報告/新刊一覧 ほか

裏表紙 **甲南学園の100年 完**



表紙の1枚  
爽やかな空に映える1号館  
(岡本キャンパス)



マネジメント創造学部  
開設10周年を迎えました

平生精神を現代に  
具現する使命を帯び2009年に始動

マネジメント創造学部 (愛称: CUBE) は、教養と品格を備え総合的マネジメント能力を有する人の育成をめざして開設されました。まず、「Eiwa School of Management」と英語名から決められたことは誕生時のユニークなエピソード。創立者・平生三郎の名を冠した学部は、平生の教育理念を現代に再現することを目的とし、日本語名はマネジメント創造学部と定められました。CUBEがめざす総合的マネジメント能力とは、経済・経営の知識、幅広い教養、実践的な英語力を組み合わせて、組織や地域社会にある問題を、個人あるいはチームとして解決に向けて行動できる力、やり抜く力を意味します。特色である少人数によるプロジェクト型学習やフィールドワーク、海外留学など、活動的な学びを可能にするキャンパスを阪神間中心の西宮北口駅前に構え、「自ら学び、共に学ぶ」「自ら考え行動する力」の醸成をめざし、2009年4月に学生と教職員の挑戦が始まりました。



卒業生数: 1253名  
※2019年度前期末現在

これまでの大学の授業の枠にとられない学び方によって、教養と品格を備え総合的マネジメント能力を有する人の育成をめざして、マネジメント創造学部の挑戦はスタートしました。10周年を迎えた今、その挑戦の成果を紹介します。

学生は経験を  
繰り返すことで  
確実に成長しています

学生を見ていると、「経験を繰り返す」ことがいかに有意義であるかを実感します。CUBEの学びは、プロジェクト型学習であれ、海外留学やフィールドワークであれ、自主的に行動することが求められます。その際、仲間や周囲の人々と協力し合うことも求められ、学生は経験を繰り返すことでその必要性に気づきます。また、課題を見つけ解決するには、論理的思考力や構想する力、協働する力など多様な能力が問われますが、学生でありながら社会に出て多くを経験することで、これらの能力を身につけていきます。CUBEの魅力である新しい学びは、10年を経て受験生に着実に浸透しており、その多くが「経済と経営の両方を学びたい」「英語を学びたいけど、それだけじゃ物足りない」「プロジェクト型学習で課題解決力を身につけたい」と明確な理由をもって入学してきます。2021年度からは2つのコースを統合し、グローバルプログラムを学部全体に広げ、地域・国際社会で活躍できる実践力を有する人を育成します。CUBEの次の10年もご期待ください。



マネジメント創造学部長  
たにぐち ち  
教授 谷口 りり子

留学



数週間の語学留学から1年間のアカデミック留学まで、多様な留学プログラムを整え海外体験を奨励しています。特に、英語はグローバルコミュニケーションのツールと位置づけるCUBEでは、現地の学生とともに英語で経済や経営に関する専門科目を学ぶアカデミック留学が特色の一つ。また、キャンパス内の「English Only-Zone」では、いつでもネイティブ教員の英語に触れることができ、英語力向上が図れます。



ニューヨーク州立大学バッファロー校への  
アカデミック留学

特別留学コースでは、2年次秋からの1年間、現地学生と同じ教室で経済や経営の英語の授業を受け、英語をフルに活用しながら留学生活を過ごします。専門分野を探究すると同時に、異なる文化や価値観をもつ学生たちと深くかかわることで、グローバルな視野やマネジメント能力を養います。また、2015年度よりピッツバーグ大学の学生を約1か月間受け入れ、海外の学生との交流を図っています。

フィールドワーク



農業や教育やビジネスなどの分野において、国内外で多彩な体験に挑むフィールドワークでは、リサーチの方法を学んだうえでさまざまな現場に足を運んで現状を知り、課題解決に向けて調査し、結果の報告や発表を行います。国内でのフィールドワークだけではなく、乳業組合の運営・販促の支援活動でCUBEの学びを生かすブータンフィールドワークなど、海外でのフィールドワークも多彩です。教室で学んだことを総動員し課題解決を探索することに重点を置いています。



農業フィールドワーク  
参加者数(累計)  
86名

農作業中心の「働き」を通して  
超高齢化した過疎地の課題を探索

2010年から10年間も継続して行う農業フィールドワークは、三重県大台町を舞台に実施しています。春から秋の半年間、田植えから稲刈り、その後の販売まで、米作りの一連を体験します。現場での米作り体験とキャンパスでの学習を繰り返す中から、農作物の流通や生育システムを学び、また米農家の方々や地域が直面する課題を探り、解決方法を提言します。

プロジェクト



プロジェクト型学習はCUBEの学びの最大の特徴。「パブリック」「グローバル」「ビジネス」「超領域」の4領域で40を超える研究プロジェクトが進行しており、学生は卒業までに5つ以上のプロジェクトに参加します。自ら学び課題を探り、現場を体験したうえで解決策を提案し実践するというサイクルを仲間とともに繰り返します。企業や自治体が抱える課題解決を産官学連携プロジェクトも盛んに行っています。



姫路港活性化企画コンペでクルーズ船の  
乗客向けプランを提案し最優秀賞を受賞

開港60周年を迎えた姫路港(兵庫県姫路市)の活性化企画を競うコンペで、「姫路港を起点とした観光プラン」をグループで提案し最優秀賞を受賞。姫路の伝統文化・名物に焦点を当て、クルーズと姫路市街観光をセットにしたプランは、地元商店街の活性化にもつながる独自の視点で評価されました。地域の魅力を客観的に分析できたのは、グループが現場に足を運びリアルな情報を調査した成果といえます。

留学生派遣数

マネジメントコース・  
特別留学コース合計

※国際交流センター、  
国際言語文化センター  
主催プログラム含む

500名

※2019年度現在(累計)

海外フィールドワーク

実施先: 7か国

- インドネシア
- ブータン
- 中国(上海)
- ベトナム
- タイ
- ラオス
- フィリピン

参加者数(累計): 192名



就職データ

多様なものの見方や洞察する力、4年間の学びでさまざまな経験を積んだ学生を社会に送り出してきました。卒業生は、金融・サービス・製造業など多様な分野で活躍しています。

【就職率(2019年3月卒業)】

※就職者数÷就職希望者数

98.3%

【出典】マネジメント創造学部ホームページ



フロンティアサイエンス学部が  
開設10周年を迎えました

# 異分野の掛け算から新たな発想を育む ねらい通りに基礎を固めた10年、 次の10年はさらなる飛躍へ

科学のフロンティアを探究するという斬新な目標を掲げ開設に尽力され、10周年を迎える今日まで、フロンティアサイエンス学部を支え見守ってこられた二人の先生にお話を伺いました。

## フロアレイアウトに 込められた思い

フロンティアサイエンス学部・研究科(愛称: FIRST)は2009年に開設されました。新学部のねらいを松井淳学部長は「生物学と化学を融合的に研究・教育すること」と説明します。神戸医療産業都市の中、スーパーコンピュータ(現在、富岳に置換中)に隣接する立地は、科学のフロンティアを学ぶのにはまさに最高の場です。

「ただ、開設主旨が斬新なだけに、果たして高校生たちが理解してくれるだろうか。また、どれぐらいの志願者が集まってくれるのかと心配でした」と、開設時の率直な心境を明かすのは研究科長を務める赤松謙祐教授。結果的に1期生は定員通り



35名がそろいました。新学部の理念は、そのフロアレイアウトに反映されています。重視されたのは「1年次から研究室にいるような環境」。学生一人ひとりに専用の研究スペース『マイラボ』が与えられ、その隣にミーティングルームと研究ゾーンを設置。教員や大学院生たちが研究にいそむ様子が自然に学生たちの目に入ります。

「先生方には、マイラボの横を通る際に学生にできるだけ声をかけるよう依頼しました。何気ないコミュニケーションを、隠れたカリキュラム」と呼び、授業とともに大切にしましたのです(松井学部長)

## 研究者マインドを 育む

キャンパス内に設置された機器類は、核磁気共鳴分光装置や走査型電子顕微鏡など、学生たちの使い慣れた経験が、将来、研究者として活躍するときにすぐに役立つように、とハイスベックなものを用意。近隣企業との共同研究にも利用されています。

「開設当初から、学生の研究者マインドを育もうと教員間で話していました(赤松研究科長)」

そのかいあって4年後には約3分の2が大学院に進学。折しも生物と化学、その融合領域での学びの重要性が目ざされ始めた時期でした。当初は学生35名に対してサポートに当たる教員が15名と、密度の濃い関係性の中で育まれた研究者マインドは、FIRSTの伝統として後輩の学生たちにも伝えられています。

1年次の両隣に先輩が配置されるマイラボのレイアウトには、後輩の面倒をきめ細かく見てほしいとの願いも込められていたのです。

## 高い大学院進学率、 そして研究職へ

卒業生の多くは、理系の研究職や技術職として社会に旅立ちました。そのうちの何名かは、神戸医療産業都市に集積する企業に就職しています。2期生以降は、博士後期課程まで進む学生がコンスタントに出るようになりました。

「研究者マインドを養うことは、誰もが研究者をめざせという意味ではあり



ません。研究とは自ら問題を打ち立て、解決策を考え抜いたうえで実験などにより証明することです。一連のプロセスをやり切ることで、未来を切り開く力が培われるのです(松井学部長)



こうした研究を通じて、自主性や積極性も自然に培われていきます。だから、一般公開イベントなどを行う際には、学生たちの多くが自主的に手伝いを申し出てくれます。

## 研究成果は 世界レベルに

研究面においても、化学と生物学の融合による新たな発想が実を結び、2018年には英国のオンライン科学雑誌『Nature Communications』に論文が2本掲載されました。イノベーションに挑戦し、ベンチャー起業家となった学生も出ています。また、2015年度にはFIRSTの教員が中心となって、短期留学体験型集中科目『エアラスタディーズ』のシンガポールコースを立ち上げました。シンガポールにある世界トップクラスの理系大学に、学部生と大学院生合わせて約20名が交流に出かけています。

「この10年で、社会に貢献できるテクノロジを開発と人材育成という当初の目標はほぼ達成できました。次の10年では、高度化している社会の要求に応えるために、博士人材の輩出を見すえた9年一貫のカリキュラム構築に取り組みます」と、松井学部長は今後の構想を語ってくれました。

2009



フロンティアサイエンス学部長  
教授 松井 淳 (右)  
フロンティアサイエンス研究科長  
教授 赤松 謙祐 (左)

## 医療関連施設や研究施設が集積

FIRSTがあるポートライナーの京コンピュータ前駅や医療センター駅周辺地区は、神戸市により神戸医療産業都市に指定されています。日本でも最大級の医療クラスターは、理化学研究所、先端医療センターなどの公的研究・医療機関や大学、医療や健康にかかわる企業などトータルで約350もの施設が集積。立地を生かした教育・研究活動も盛んに行われ、企業見学や講演会なども定期的に開催しています。



## 【卒業者数】

学部生 ..... 237名  
大学院生 ..... 105名

※2019年度前期末データ  
※大学院生の数には  
論文博士を含む

2015

## 革新と伝統の融合

FIRSTでは学部開設以来、甲南大学の他の学部とは全く異なる独自のカリキュラムで教育を行っていましたが、2017年度からは、学部の1・2年次は週に1日、岡本キャンパスで他学部の学生たちと同じ授業を受けることになりました。それに合わせて、入学定員も45名に増やしました。少人数教育の良さを残しながら、より多くの人たち、そして、多様な学びに触れることで、それまで以上に大きく学生たちに成長してほしい、という願いをこめた学部教育改革の一つです。

## 高い研究力が評価を得る

がん細胞の増殖や転移を促進する分子だけをねらって破壊する新しい光線力学治療法の開発

みよし だいすけ 教授 三好大輔  
かわうちけいこ 准教授 川内敬子

光線力学治療法は、身体的負担の少ないがん治療法として知られています。本研究では、がん細胞に光感受性物質を導入し、近赤外光を照射してがん細胞の分裂や転移促進にかかわるたんぱく質をコードするRNAだけを分解する方法を世界で初めて確立しました。RNAをねらった医薬品はほかに例がないことから、本成果を基にした新しい医薬品開発の加速が期待されます。

細胞および細胞機能・応答の新しい活用法を提唱～“生きている”多機能性細胞ゲルの開発～

ながはま こうじ 准教授 長濱宏治

生きた細胞を生体適合性高分子を用いて、化学架橋(ハイドロゲル化)することに世界で初めて成功しました。ゲル内の細胞が示す反応をゲル全体の機能発現に利用できるため、このゲルは細胞と同等以上の機能をもちます。生体の損傷組織に投与すると、細胞ゲルが損傷組織の再建と機能回復を促すなど、新しい細胞治療法を生み出す基盤材料として、医療分野への貢献が期待されます。

2020

## FIRST同窓会も10周年



マイラボで育まれた絆を、卒業後もずっと。そのような想いからFIRSTには、大学の同窓会に加えて独自の同窓会組織があります。2月22日のFIRST同窓会10周年総会では、約120名の同窓生と教職員が集まり学生時代を懐かしむと同時に、仕事上の相談をするなど、社会人としての一面も。同窓生たちの豊富な経験は、今後、在学生のキャリア教育にも生かされていく予定です。

# CUBE、FIRST 1期生の今

一般財団法人 沖縄美ら島財団

くにひろ しおり  
国広 潮里さん

2013年 フロンティアサイエンス学部生命化学科 卒業  
2015年 同研究科生命化学専攻 修士課程修了  
2019年 琉球大学大学院理工学研究科海洋環境学専攻 博士後期課程修了

## 先生方と最先端の環境に恵まれ 好奇心の羽根を広げた6年間

すべてはオープンキャンパスの実験講座から始まりました。遺伝子鑑定に挑戦したもののうまくいかない私に「明日もう一度、来たら？」という温かい声が…。好奇心旺盛な私は、その一言に「ここでなら伸び伸びと学べる！」と確信。実際には、マイラボという専用



面白いことを見つけ、夢中になる。  
ここで育んだ姿勢が私の原点です

スペースが用意されていたり、1年次から先端機器を使って実験できたりと想像以上の環境が待っていました。3年次になる直前、ウミガメ研究で有名な沖縄の黒島研究所で研修を受けようと思ったのも、さらに視野を広げたいと考えたから。そんな私を「甲南大学同窓会チャレンジ基金」が支援してくださり、沖縄で海洋生物を探究する道へ一歩踏み出すことができました。

### On that day



大学時代に研修のために訪れた沖縄の黒島研究所で、ウミガメの放流を経験。同行した後輩や地元学生たちと、生き物の観察や島の方々との交流など、充実した日々を過ごしました。

専門性をワクワクする体験に変え  
沖縄の魅力伝える懸け橋へ  
現在は、沖縄美ら島財団の総合研究センターで普及啓発活動に携わっています。沖縄の自然・歴史・文化に関する調査研究の成果を広く一般の方に伝えることが主な役割。私たち職員それぞれの専門を生かした学習プログラムや講演会の企画、出前授業など教育機関と連携した授業の実施、さらには小学校跡地を利用した美ら島自然学校での教育活動なども担当しています。さまざまな知見を生かしながら楽しく学べる機会を提供することは、沖縄の豊かな魅力を伝え、後世に残す「懸け橋」となること。私自身の研究分野であるサンゴ礁域に生息する無腸動物の調査も継続し、専門性を土台としたワクワクする学びの体験を人々に届けたいと思います。

株式会社 メタルワン  
Metal One do Brasil Com. E Rep. Ltda.  
Sales Manager / Assistant Chief Regional Officer

きんじょう  
金城 ウイリアンさん

2013年 マネジメント創造学部  
マネジメント創造学科マネジメントコース 卒業



日本とブラジルの懸け橋になりたい。  
そんな思いを実現できました



いち早くグローバルビジネスを  
体感できたインターンシップ  
他大学にはない学部構想やカリキュラムに魅力を感じて、マネジメント創造学部に進みました。戦後に父の家族がブラジルへ移住し、現地で育った私にとって、学園創立者の平生三郎先生が1935年にブラジル経済使節団長として活躍されたことも大きな理由でした。英語につい

ては、単に文法を学ぶのではなく「英語で学ぶ」環境があり、就職後に実践の場で役立ちました。プロジェクト型学習では企業分析、ブランドデザイン、国際問題などの教養も身につきました。3年次に参加したコロンビア大学情報通信機関のインターンシップでは、ニューヨークの日本企業を訪問したり、世界各国から集った学生たちとともに活動したりと、グローバルビジネスをいち早く体感できたことは大きな財産です。

### On that day



ニューヨークに到着して一番最初に向かった憧れのウォールストリート。スーツを着た銀行・証券マンが街をさっそうと歩いている姿が忘れられません。

身についた論理的思考を生かし、  
各国の発展に貢献  
来日当初は数年でブラジルに帰るつもりでしたが、高校生活を通じて日本での生活が好きになり、ブラジルと日本を結びつける仕事がしたいと考えるようになりました。現在、鉄鋼総合商社に入社して7年目。「3国間貿易取引」を担当する営業職です。各国のマーケット調査、日々の市況の把握、物流の手配、ファイナンス機能を付与して販売するなど、幅広い知識が求められる業務を担っています。2019年からブラジル駐在となり、営業に加え、南米統括補佐業務も担当。大学で学んだ、問題を整理分析し解決に導く論理的思考や教養は、国際的なビジネスの場で欠かせないスキル。ブラジルと日本だけでなく、さまざまな国々をつないで取引を行っている現在、会社と各国の発展に貢献していることが誇りです。